

報告

教科「情報」の授業における工夫と課題 ——望ましい情報教育の推進を目指して——

関東地区高等学校情報教育研究会合同研究大会（第1回東京大会）大会事務局 小原 格
（東京都高等学校情報教育研究会 情報活用部会長：東京都立町田高等学校）
katuyo@tokojoken.jp http://www.tokojoken.jp/

1. はじめに

平成17年8月26日、台風の影響も残る中、関東地区高等学校情報教育研究会合同研究大会（第1回東京大会）が、東京都立工芸高等学校にて行われた。

主催は東京都高等学校情報教育研究会（以下都高情研）、共催として神奈川県高等学校教科研究会情報部会・埼玉県高等学校情報教育研究会・茨城県高等学校教育研究会情報部会、協賛として、静岡県高等学校教科「情報」教育研究会が参加。さらに、千葉県の有志の先生方にもご協力をいただいた。東京都・神奈川県・埼玉県・群馬県・茨城県・静岡県・横浜市・横須賀市の各教育委員会からも後援をいただき、都県を越えての大規模な合同開催型研究大会となった。また、参加者も関東地区にとどまらず、宮城県・山形県・岡山県など遠方の先生方にもおいでいただき、計220名を超える熱気あふれる会となった。

テーマは、「教科『情報』の授業における工夫と課題——望ましい情報教育の推進を目指して——」。教科「情報」が始まり3年が経とうとしている中、「望ましい情報教育」を推進していくために、私

たちの課題は何なのか、それをどのような工夫で解決していけばいいのか、という内容が、今大会の柱になっており、当日は、文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官の永井克昇先生による講演、分科会として各都県の先生方から計12枠の研究発表、そして、各都県の方々によるパネルディスカッションの3つの企画が行われた。

2. 講演

主催者挨拶、東京都教育委員会挨拶の後、永井調査官より、「教科『情報』の授業における工夫と課題」という題で講演をいただいた。

1時間という限られた時間の中で、「情報活用能力の向上がもたらす効果」や、ITの活用による様々な感動、授業の中で扱った内容の調査結果、中学校での内容や履修例、また、教科「情報」をめぐる中教審等での検討事項など、具体的な例を織り交ぜながらの多岐にわたる内容であった。

特に、「情報活用能力の向上がもたらす効果」に関しては、「情報活用能力」を「読書力」と対比させて、「2つの連鎖」について言及された。1つ目の連鎖とは、朝読書や他教科の教員との連携、メディアリテラシーの習得など、読書力や情



報活用能力を向上させる取り組みによって得られる、新たな読書や情報活用の誘発であり、この連鎖により、読書力や情報活用能力がますます向上していく、というものである。いわば、普通の授業において、たとえば「リテラシー教育」としてのワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方等を行うことにより、情報活用能力を高め、それによってますます情報機器を活用するようになる、といった例があげられると思われる。

しかし、それだけで終わらせるのではなく、読書力や情報活用能力を高めることにより、学力の向上、ひいては「生きる力」を育む連鎖を生み出していく必要がある、そして、学力向上により、さらに読書力や情報活用能力が高まっていくような連鎖も必要である、と指摘された。これを2つ目の連鎖と位置づけ、「これからの授業はこの2つ目の連鎖を意識しながら取り組んでいくことが大切」とお話されたことが大変印象に残った。

3. 分科会

分科会は、3つの会場に分かれて40分間の時間枠を区切り、休憩と昼休みを挟んで4回、合計12枠の発表が行われた。各都県によりそれぞれの枠を受け持ち発表する方式をとり、東京は3枠、神奈川・埼玉・茨城・千葉は2枠、静岡は1枠を担当した。枠の使い方は各都県にお任せしたため、1枠で複数の発表を行ったり、複数県で複数枠のコラボレーションを行った都県もあり、どれも見応えのあるものとなった。

3.1 東京都

都高情研では現在、情報活用部会、情報科学部会、情報社会部会という3つの部会に分かれ、それぞれの研究活動を行っている。そのため、割り当てられた3枠を、それぞれの部会にて1つずつ受け持ち発表を行った。

情報活用部会からは佐藤義弘先生（都立府中西高等学校）がICT活用実践の報告を行った。東京都の「IT推進校」に勤務する佐藤先生は、光量を確保するために 프로젝タをスタックしたり、

ワイヤレスマウスを利用して動きのあるプレゼンテーションを行ったりと、ICT機器を活用した、「知っているとちょっと便利な使い方」という切り口でユニークな実践報告が行われた。

情報科学部会からは石田洋先生（都立九段高等学校）と椋本哲也先生（都立竹早高等学校）がプロトコルおよびルーティングについての実習および実践報告を行った。前半では石田先生より、経路表を利用してデータがどのようにネットワーク上で運ばれるのか、という実習の実践報告。後半では椋本先生より、公開鍵暗号を実際に使って通信することにより、暗号化のしくみを体験できる実習の実践報告があった。

情報社会部会の小林潤一郎先生（田園調布雙葉中学高等学校）からは、金銭教育とライフプランについての実践が報告された。マネースマートというソフトを利用し、収支という観点から労働や金銭といった内容をゲーム感覚で実感できるような実践報告であり、小林先生の巧みなプレゼンテーションに会場内からも笑いが多く起きていた。



3.2 神奈川県

神奈川県からは、小野尚登先生（県立六ツ川高等学校）、五十嵐誠先生（県立横浜清陵総合高等学校）、田邊則彦先生（慶応義塾湘南藤沢中・高等部）より発表が行われた。

小野先生からは、県で実施した「導入テスト」の概要とその結果について、非常に詳細なデータや分析を、五十嵐先生からは情報部会有志で取り組まれた「指導と評価の一体化」の研究についての報告を、そして、田邊先生からは、慶応義塾湘南藤沢中・高等部での取り組みを多くの例やデー



タを交えて報告をいただいた。いずれも先進的で深い内容であり、会場の先生方は熱心に耳を傾けメモをとっていた。

3.3 埼玉県

埼玉県からは、曾田正彦先生（県立所沢西高等学校）、柳澤実先生（県立松山女子高等学校）、中島聡先生（県立越ヶ谷高等学校）の3名の先生方より実践報告が行われた。曾田先生からは2年間の「情報A」の取り組みを、新任教員としての立場から報告していただいた。柳澤先生からは「埼玉における教科『情報』に関するアンケート調査」、中島先生からは「成果物の生徒間相互評価用ソフトウェアの開発と複数回評価での運用」というタイトルでそれぞれ発表をいただいた。埼玉県の研究会はまだ設立したばかりとのことのお話であったが、いずれも内容の濃い発表であり、先生方の熱心な取り組みが伝わってくる内容であった。

3.4 茨城県

折しも「つくばエクスプレス」が2日前の8月24日に開業し、多くの先生がおいでになった茨城県からは、佐々木優子先生（石岡第二高等学校）、野中寿英先生（江戸崎総合高等学校）、土居義邦先生（江戸崎総合高等学校）、塩野雅代先生（並木高等学校）の4名の先生方から発表があった。

土居先生からは「教科『情報』2年間の実践報告と今後の計画について」という題で、総合学科における授業内容やカリキュラムの検討について、塩野先生からは「情報Aがもたらしたもの」として、並木高等学校でのカリキュラムや具体的な取り組みについて報告があった。

佐々木先生と野中先生より、「情報社会の子供達」という題で、若手教員の立場から、現在の子供達に対する接し方や、授業を進める上での工夫などの発表が行われた。これは、埼玉県の曾田先生との「ジョイント企画」となり、埼玉・茨城の若手の先生方によるひとつの大きな連携の場となった。発表の終わりには、各都県から若手の方々に前においでいただき、お一人ずつ自己紹介していただくなど、新たなネットワークをつくる大きなきっかけとなったように思われる。



3.5 静岡県

静岡県からは、渡森和彦先生（県立御殿場高等学校）より、「マルチ情報教材の共同研究とその実践」という題で、生徒のスキル差への対応やEラーニングへの発展など、Web形式のマルチ情報教材の共同制作についての発表があった。フリーソフトを利用したの画像処理・音声処理・動画編集やネットワーク学習、また、特別活動や他教科との連携、進路学習など、多くの機会に幅広い教材を利用した先進的な内容の報告が行われた。

3.6 千葉県

千葉県からは、大橋真也先生（県立東葛飾高等学校）、永野直先生（県立茂原高等学校）、渡久山朝一先生（佐倉南高等学校）の3名の先生に発表をお願いすることができた。大橋先生からは「チームティーチングを生かした情報の授業実践」について、千葉県のTTの現状も交えながらの報告、永野先生からは「情報機器を活用したわかる授業の実践」としてフリーソフト「ことだまlecture」の活用を、生徒の感想を交えながら報告い

ただいた。渡久山先生からは「教科情報を2年間担当して」という題で、佐倉南高等学校での情報の考え方、校内LANの活用、およびユーザー管理やセキュリティ設定等の具体的な方法について報告があった。

4. パネルディスカッション

分科会終了後1時間半にわたり、「授業内容の工夫」というテーマでパネルディスカッションを行った。天良和男先生（東京都）、小島淳子先生（神奈川県）、加藤友信先生（埼玉県）、福島毅先生（千葉県）、齊藤達也先生（茨城県）、入谷昭先生（静岡県）と、いずれも第一線で活躍されている実践豊かで著名な先生方にご登壇いただいた。

事前に参加者の方々から、パネルディスカッションで取り上げてほしい内容をお願いしたところ、大変多くの題材・ご意見やご質問をいただくことができ、あらためて今大会の関心の高さを物語っているように感じた。主な内容としては、

- ・PCを利用しない「情報」
- ・生徒の習熟度の差
- ・指導と評価、個に応じた指導
- ・技能審査の単位認定
- ・「情報」の体系化、履修、教員事情



などがあげられ、フロアーからも質問や意見が多く出された。登壇者の方々も含めて、熱心で、かつ、時々笑みがこぼれるような、あっという間の1時間半であった。

5. まとめ

最後に、埼玉県高等学校情報教育研究会会長の矢部秀一先生から、閉会のごあいさつと、来年度の埼玉県での「開催宣言」が行われ、盛況のうちに会をお開きにすることができた。

この大会での一番の収穫は、なんといっても「つながり」だろうと思う。「情報」はまだ始まったばかりの上、教員数も少ない教科、このように多くの現場の先生方による実践事例の情報交換は、視野を広げる意味でも非常に刺激になる、という感想も多く聞かれた。

今大会は、各都県の研究会が自主的に集まり合同で研究大会を開催する、という形式であったため、各研究会の幹事の先生方、とりわけ神奈川県の先生方には多くのご協力をいただき、感謝の念に堪えない思いである。また、千葉・静岡の先生方は、台風で大きな影響が残る中、発表のために駆けつけてくださった。この大会にご協力いただいたすべての先生方や関係者の方々に、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げたい。

また、これを機に「ぜひ関東の組織を」という要望も多く聞かれる。今後の課題の1つである。

なお、今大会の詳細については、都高情研Web (<http://www.tokojoken.jp/>) にて、資料等も含め公開している。ご参照いただければ幸いである。